

令和2年度 第23回益田市子ども・子育て会議議事録

日 時：令和2年7月29日（水）午前9時00分～11時00分

場 所：益田市保健センター 3階 大ホール

出席者：

（委員）石橋会長、田中副会長、福井委員、藤原委員、
中村委員、山本委員、大石委員、高島委員

（事務局）福祉環境部	山本推進監
子ども福祉課	又賀課長、石田課長補佐、 大石主任、炭屋主任主事、木東地主任主事
子ども家庭支援課	盆子原課長、山崎係長、岩田係長
子育て支援センター	齋藤所長、内田所長補佐
教育委員会	野村教育部長
学校教育課	田原課長
社会教育課	中島係長
福祉環境部美都分室	橋本室長
福祉環境部匹見分室	藤本室長

<次第>

1. 開会

2. 挨拶

3. 委員紹介

4. 議事

（1）会長の専任について

（2）令和元年度の益田市子ども・子育て支援事業計画の評価について

【資料1、1-①、1-②、1-③、1-④】

5. 報告事項

（1）第2期益田市子ども・子育て支援事業計画の一部修正について

【資料2】

（2）保育所等の状況について

【資料3、資料3-1】

（3）放課後児童クラブの状況等について

【資料4】

6. その他

（1）次回の会議開催について

■開会

○司会

皆さま、おはようございます。本日は、ご多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。ご案内した時刻になりましたので、只今から、「令和2年度第1回（通算第23回目）の益田市子ども・子育て会議」を開催させていただきます。私は、本日の進行を担当します子ども福祉課の大石と申します。宜しくお願いします。本日の会議ですが、11時00分を終了予定時刻としておりますので、宜しくお願いします。

それでは、会議に入る前に、本日の資料の確認をさせていただきます。①本日の会議次第、②益田市子ども子育て会議の委員名簿及び事務局名簿、③第2期益田市子ども子育て支援事業計画、④【資料1-①、-②、-③、-④】令和元年度子ども・子育て支援事業計画の評価について、⑤【資料2】第2期子ども・子育て支援事業計画の一部修正について、⑥【資料3】保育所等の状況に

ついて【報告】、⑦【資料 3-1】年度別人口状況、⑧【資料 4】放課後児童クラブの状況について、⑨（当日追加）「第 2 期益田市子ども・子育て支援事業計画概要版」、⑩（当日追加）「資料 1-②参考 平成 30 年度の施策体系に基づく主要事業の評価結果一覧」です。

資料についてはよろしいでしょうか。

また、資料に誤植等ありましたら、事務局に言っていただけたらと思います。

それでは、早速ではあります、開会にあたり、健康子育て推進監 山本ひとみのご挨拶を申し上げます。

■挨拶

○山本推進監

皆様改めましておはようございます。第 22 回子ども・子育て会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。また平素より、教育、福祉行政に対してご協力いただきましてこの場をお借りしてお礼を申し上げます。連日のコロナウイルスのニュースで不安が募るところですが、皆様にはこういった時期に感染症対策にご配慮いただいていることとっております。やはり日頃からの元気な身体づくり、うがい手洗い、咳エチケットという対策をしっかりといただければと思いますのでよろしくお願ひします。それでは委員の皆様には 12 月末に任期満了ということで改選となりました。年度の区切りに合わせた改選時期にということで、皆様には委嘱状をお渡ししておりますが、3 月末までということでお願いさせていただいているところでございます。今回の改選で、幼稚園連合会様の方は永見先生から中村先生に交代となっております。よろしくお願ひします。またその他の委員様については引き続きご協力をいただくということでよろしくお願ひします。本日の議事につきましては、レジメにありますように、第 2 期子ども・子育て支援事業計画に係りますパブリックコメントの実施結果、またその他の関係機関様からご意見をいただいておりますので、その修正内容等についてご説明をさせていただきます。本日は最終確認の場ということになりますので、ご意見をたくさんいただければと思います。そして報告事項といたしましては、保育所や放課後児童クラブの入所等に関する最近の状況や益田版放課後子ども総合プラン第 2 期アクションプランについて用意させていただいているところでございます。吉田小学校区のトマト児童クラブの方も施設の完成に向けて順調に進んでいるところでございます。今後は中身の方を進めていくということで、よいスタートが切れるように関係者の皆様ともに連携をして最終の準備をしまいたいと考えております。それでは本日の会議も有意義なものになりますように皆様のご協力をいただきましてよろしくお願ひいたします。

■委員紹介

○司会

ありがとうございます。続きまして、会議次第の 3 番目、委員紹介に移ります。今回、議員改選後の初めての会議となります。新たに委員になられた方もおられますので、改めて自己紹介をお願いできればと思います。それでは、福井委員様から順番に所属とお名前をお願いします。

- ・福井委員、高島委員、田中委員、大石委員、藤原委員、石橋委員の自己紹介

ありがとうございます。皆様の他に本日欠席となっておりますが、木地谷委員、柳井委員、積田委員もおられますので、ご報告いたします。

続きまして、『事務局側の自己紹介』をさせていただきます。

事務局自己紹介

続きまして、会議次第にはありませんが、今年度から委員となられた方、また昨年度より継続して委員を引き受けていただいております委員の皆さんに対しまして、「益田市子ども・子育て会議」の役割等について、再度ご説明させていただければと思います。

まず、国においては、平成 24 年 8 月に「子ども・子育て関連 3 法」が成立し、この法律に基づく、新たな子育て支援の仕組みである「子ども・子育て支援新制度」のもとで、

①質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、

- ②保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善、
- ③地域の子ども・子育て支援の充実を目指す
とされております。

これらを推進するため「子ども子育て支援法」の規定に基づき「第1期益田市子ども子育て支援事業計画」を平成27年3月に策定しました。

子ども・子育て会議については、「子どもの最善の利益」が実現できる社会をめざし、庁内の関係部署と連携して横断的な施策に取り組むとともに、様々な機関の方々の意見を取り入れながら事業の着実な実施が行えるように進捗(しんちょく)管理を行っている場となります。

年々、社会情勢が変わる中、家族構成の変化や地域のつながりの希薄化により、子育てがしづらくなっていることが挙げられます。

子どもたちの育ちを地域みんなで支え合うことで、地域ニーズに対する課題解決や、子ども・子育て支援事業計画に沿った子育てを進めることで解決できることもあるかと思えます。

益田市においても、平成26年度から、子ども・子育て会議を設置して、年に3~4回会議を開催し、様々な意見交換や施策の推進、進捗状況を説明しているところです。

また、資料からもわかりますように、平成17年度に作成しました「益田市次世代育成支援行動計画」にあります事業等についても、「益田市子ども子育て支援事業計画」に継承していることから、非常にボリュームのある事業内容となっており、事業計画の進捗管理ということで、どうしても数値的な報告等が多くなっております。

本日の会議においては、第1期の事業計画に基づく令和元年度の点検・評価としておりますことから、数値的な報告等が多くなってしまっていますが、ご理解いただき、ご意見等をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

■議事(1)会長の選任について

○司会

そうしますと、会議次第の4番目の議事に移らせていただきます。

本来であれば、議事の進行は、会議規則 第5条第1項の規定により、会長が議長となりますが、今回委員改選後、初めての会議となりますので、議事の(1)番目、『会長の選任について』までを、事務局で進めさせていただきます。

会長につきましては、会議規則 第4条第1項の規定により、委員の互選により会長を定めることとなっておりますが、よろしければ事務局から(案)を出させていただこうと思いますが、宜しいでしょうか。

それでは、会長には『認定こども園 地方裁量型 代表の 石橋俊哉 様』にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

—委員一同承認—

ありがとうございます。承認をいただきましたので、石橋委員様 会長席に移動していただき、一言お願いいたします。

○石橋委員

初回からこの会は参加させていただいてます。皆様の活発なご意見を頂きこの会を有意義なものにしていきたいと思っておりますので、ご協力の方よろしく申し上げます。

○司会

次に、会議規則第4条第3項に、会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職を代理する、という規定がございます。会議規則に副会長という職はありませんが、この職の代理をするものを副会長として、会長に指名していただきたいと思えます。石橋会長いかがでしょうか

○石橋会長

会長指名ということで、前回に引き続きまして、田中委員にお願いしたいと思えます。いかが

でしょうか。

—委員一同承認—

○司会

只今、会長から副会長として田中委員をご指名いただきましたが、田中委員様、よろしいでしょうか。

○田中副会長

はい。

○司会

それでは、田中委員様 副会長席に移動していただき、一言お願いいたします。

○田中副会長

只今ご指名いただきました田中です。石橋会長をしっかりとサポートしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○司会

ありがとうございます。それでは、以降の議事につきましては、会長に議長をお願いします。石橋会長よろしくお願いします。

○石橋会長 1016

それでは、資料1から始めます。これまでの点検、評価についての説明を担当課の方からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○石田課長補佐 1101

子ども福祉課の石田です。私の方から子ども子育て会議の支援事業計画に関する点検評価について、説明をさせていただきます。資料1の「益田市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について」をご覧ください。

益田市子ども子育て支援事業計画につきましては、平成27年度からの5年間の計画として平成27年3月に策定されております。

この事業計画につきましては、大きく二つに分かれており、一つは「益田市次世代育成支援行動計画」に係る事業を継承した内容となっており、4つの「基本項目」に対する具体的な施策展開を体系付けした61の事業の内容となっています。

資料で言いますと、資料1-①です。

この施策体系付けした61の事業につきましては、年度ごとに達成度を「A」「B」「C」「N」の4段階で評価し、問題点や課題、次年度に向けた改善内容等を記載する方法により、点検・評価を行っています。

もう一つは「子ども・子育て支援法」で示されている「幼児期の学校教育・保育」、「地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するための13の事業内容」となっております。資料で言いますと資料1-③、1-④となり、過去5年分の評価内容をまとめたものとなっております。今年度につきましては最終年度ということで、令和元年度の欄に新たに追加されたものとなっております。

事業計画を推進するため、毎年度PDCAサイクルを回しながら、益田市子ども・子育て会議において進捗管理を行い、点検・評価を実施していただいているところです。

なお、この「点検・評価」については、全事業を点検・評価の対象としています。

これまで、子ども・子育て会議の場において、平成27年度から平成30年度までの4年間分の点検・評価を実施していただきました。

誰が見ても分かりやすくするため、点検・評価しやすいように数値等による点検・評価を実施してきましたが、委員の方より「量の見込みが当たったか、当たらなかったという評価になっていて、質の評価になっていない」というご意見をいただいております。

子ども・子育て会議の中での議論については、質の評価に移りつつありますが、現在の資料は、

それに対応する評価資料となっていない状況となっています。

令和2年度からは、第2期の事業計画に基づき事業を展開しており、その評価方法等につきましては改めて検討しまして、次回以降の子ども・子育て会議の場において提示し、ご意見等をいただければと考えております。

今回につきましては、第1期の事業計画の最終年度となっておりますことから、これまでの方法によって作成しておりますので、ご了承いただき、点検・評価していただきますよう、よろしくお願いいたします。

併せまして、資料1-②についてご説明いたします。参考として本日追加で配布しました平成30年度の評価結果一覧の「資料1-②参考」も合わせてご覧ください。

この資料は、施策体系に基づく61の主要事業の評価結果の一覧となります。

平成30年度と令和元年度を比較していただきますと、「1 地域における子育てへの支援」の「①多様な子育て支援サービス環境の整備」と「4 仕事と家庭の両立の推進」の「①安心して妊娠・出産して子育てをしながら働き続けられる職場環境の整備」について、評価内容が変動しております。

の内容については、後ほど「基本目標①～④」ごとに、変動の理由等のご説明する予定となっております。

なお、委員の皆様には、この後、基本目標ごとの61事業と子ども子育て支援法に基づく15事業の評価について、ご意見・ご質問をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○石橋会長

ありがとうございました。ここまでで、点検評価の方法等、初めて委員となられた方もいらっしゃるのでは、質問等ありましたらお願いします。

では、資料1-①の昨年度からの評価の変更となっている項目について、説明をお願いします。

○石田課長補佐

資料1-①、17頁、事業番号60番、働き方の見直しと子育て家庭に優しい職場づくりの啓発につきまして、評価が「A」から「B」とさせていただいておりますことについて説明させていただきます。

こちらの事業につきましては、平成29年度から「ますだ子育て応援宣言企業登録制度」を開始しております、仕事と生活の調和を推進し、子育てにやさしい職場づくりに積極的に取り組む企業を登録している事業となっておりますが、ゼロ予算事業であり、企業に対する直接的なメリットが少ないことから、登録企業数が伸びあぐねている傾向があります。

今回の評価は、平成30年度については11社の登録がありましたが、令和元年度は6社となったことから、評価を「A」から「B」に下げています。

減少した理由としましては、別の登録事業であるU・Iターンサポート企業の登録事業所等に対して、子育て応援宣言企業の登録もお願いしておりましたが、最終的には年度内での登録をしていたがけなかったこと等、全体的な取組み不足によるものと反省しているところです。

今年度につきましては、もっと早い段階からの取り組みを行い、U・Iターンサポート企業だけでなく、人企連等の他の団体等を通じた依頼等についても取り組んでいくこととしています。

○石橋会長

ありがとうございました。それでは、最初に「①地域における子育てへの支援について」の項目で質問等あればおねがいします。

○福井委員

5番目の特別保育サービスの実施の評価について、一時預かり事業の評価が「C」となっているため、全体で「C」となっていると思いますが、一時預かり事業についてのニーズがどの程度あるか把握されていますでしょうか。

○石田課長補佐

一時預かり事業については、資料1-④の10ページをご覧ください。ニーズにつきましては量の見込確保数のなかで、在園児対象型を除く確保数では5,057人のニーズがあり、また、ニ

ーズに対する受け皿も確保しています。

○福井委員

ありがとうございました。

○石橋会長

ありがとうございました。これは総合的に「C」があれば、「C」という判断でよろしいでしょうか。

○石田課長補佐

複数の事業がありますが、そのなかで「C」が1つでもあれば総合的に「C」という評価をさせていただきますいております。

○石橋会長

ありがとうございました。

○中村委員

天使幼稚園だけのことですが、一時預かりは実施しておりません。預かり保育も目的を決めて、就労されているご家庭のみに実施しております。あとは、急用、急病がある場合の預かり保育としております。夏休みも人数を限定していきまして、そういった取り組みをしていないと、幼稚園に預けてしまおうということで、親子の触れ合いが作れるのに作れなくなってしまうので、天使幼稚園では、預かり保育をどうぞということではありません。

○石橋会長

ありがとうございました。確かに親子の触れ合いの時間を大切にすることはすごく大事なことで、時間を作ってあげないと取れない家庭も多くなって、多忙な生活スタイルになってきているご家庭では、有意義であると思います。

○田中副会長

現場で感じていることですが、平成30年度はすごく一時保育が多かったのですが、令和元年度ではすごく減りました。なぜかなと思ったのですが、益田市全体で利用人数が減っている状況だったのだなと思いましたが、一時保育は各施設対応できますが、ニーズが低くなったという現状であれば、「C」という評価がどうなのかなと思います。現場は十分に受けるキャパはありますが、そもそものニーズが低くなっていることの原因の検証ができていないなかで、評価が「C」というのはどうかと思います。

○石橋会長

ありがとうございました。これは、今後どのようにお考えですか。

○石田課長補佐

資料1-④の⑨-2 一時預かり事業の令和元年度の量の見込5,057人と、実績の1,683人を評価シートにより数字だけで単純に比べ「A」「B」「C」「D」を決めているので、事業計画の50%を下回る場合は「C」という評価としています。評価方法については、事業によって評価の方法に問題があり、変えていかないといけないと思いますが、この度の評価方法で行くと「C」という評価となります。

○石橋会長

ありがとうございました。やはり、他県の市町村から来られた保護者さんから言われることは、保育所に関して益田市は悩む事がないですねと言われます。一時預かりとか延長保育とか園を選ぶことについて困らない。特に、都市部から来られた方は、園を選ぶことができることにびっくりされています。量的なことに関しましては、確保されていると思います。これから質の拡充についてすごく大事になってくると思います。「9」「10」「11」あたりの放課後児童クラブの関係で確認したいことはありますでしょうか。

無いようですので、次のページの地域における子育てへの支援について「12」から「15」になりますが、なにかありますでしょうか。

各地域にある子ども会が運営できなくなってきたと伺っています。自治会によっては子ども会自体が無くなってしまったところもたくさんあります。「15」の評価について、「A」から「B」評価に落ちて、そのまま上がれないというのは地域性の過疎化という問題もありますが、小学校と自治会との関係はどのような感じですか。

○大石委員

益田市全体を把握しているわけではないのですが、豊川小学校でいうと「つろうて子育てプロジェクト」というところと一緒に考えているところであります。資料「14」の放課後児童クラブとの一体的な放課後子ども教室がありますが、豊川小学校でいえば盛んになっていると感じています。他の地域では今後広がっていくということで、「B」評価となっているところです。なかなか、所管が違ふとか言い出すと切がないですが、このあたりが広がっていけば良いと思います。

○石橋会長

ありがとうございました。「B」評価でも3期続いていけば何らかの足りない部分がすごく大きいのではと感じられますので、そういったところを改善点の一つとして揚げていければと、思います。子育てプロジェクトとか各地域で格差があると思いますが、広げていってもらえたらと思います。

○福井委員

「13」のところの高等学校との連携によるキャリアサポート事業に課題を残したとありますが、「12」の中学校のところは「つろうて子育て協議会」のような会議を作って持続可能な連携の仕方を模索しているのかなと思うのですが、高等学校との連携については、どのような課題が残ったのか、来年度以降についてはどうなっていくのだろうかなど疑問を持ったので、そのあたりの説明がございましたらお願いします。

○社会教育課 中島係長

明誠高校とのキャリアサポート事業については、昨年度からスタートしたものとなっています。3年生を対象として、二条地区の公民館に4名から5名の生徒が関わって公民館の活動、地域活動を一緒に実施をするというものとなっております。学校での学びもしっかり、地域での活動を実践に移し、その地域で学んだことをまた、学校教育の方で行動していくというような「学び」と「実践」の交換リレーをしっかりと作っていくことが益田市の取り組んでいることですので、その実践の一つであると考えております。昨年はそういった形で取り組みましたが、遠方の公民館へ行くときの移動手段の確保や、子どもたちと公民館とが連絡を取り合うのですが、学校によっては、直接子どもたちが連絡を取り合うところもあれば、先生が間に入られるところもありました。その辺が、初年度ということもあり連携を取りながら進めてきたのですが、初めて見るといろいろと改善点が見つかったというのが昨年度でした。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、スタートが遅れましたが、すでに取り組んでおり、子どもたちが公民館に通っています。現在は3回実施しています。1年を通して、こんなことをやったらいいかなというのが、全地区で見えてきているという状況です。昨年度課題であった移動については、高校の移動用バス等を使用させていただきます。連絡等については、必ず学校の先生にお願いするなど、仕組みを整えて2年目を迎えている状況です。

○福井委員

ありがとうございました。

○石橋会長

ありがとうございました。高校生が地域に出て、住んでいる方全員で、子育てを応援していこうという場所を作っていこうという取組はすごく有意義であると思います。

続きまして、母親と子どもの健康の確保についてです。

○山本委員

国では、産後2週間健診が導入となりますが、益田市では導入はどのように考えていますか。

○子ども家庭支援課 盆子原課長

子ども家庭支援課の盆子原です。産後健診の重要性は島根県からも病院からも言われているところです。子ども家庭支援課と致しましては、早いところで実施できるように検討に入っているところですが、まだ、担当課で検討しているところですので、実施したいというところまでしかお答えができません。

○石橋会長

ありがとうございました。幅広い健診方法で他市町村でも実施され、良いものなので、できるだけ前向きに取り入れていった方が、少子化対策にもつながっていくと思われまし、特に初産でのお母さんがたはどうしたら良いのだろう不安がっていると思います。先日も都市部の方ですごく残念な事件があったりして、いかに出産した後のケアがすごく重要であるということを感じさせられました。子どもさんのことを思うと、かわいそうで、どうにかできなかったのだろうかと考えさせられます。益田市でもそういう悲惨なことが何年前にあったと思いますが、二度とないようにできればなと思いますので、できれば前向きに検討していただければと思います。

続きまして、益田市では出生数がかなり減っていますが、影響のある事業が多いのですが、要因がなになのか、大雑把で良いので、益田市は今こういう状況ですというような説明がありますか。

○山本推進監

出生数はだんだん減少しているが、益田市では合計特殊出生数（一生涯に出産される人数）においては最新のデータではありませんが、これまでの数字では1.8人で、決して少なくない数字です。出産される年代の人口が減少しているということが大きな原因となっていると思われまし。

○石橋会長

ありがとうございました。率は上がっているが、数が減っているというところですね。

○山本推進監

率が上がっていると言うより、全国平均よりは高いという数字です。近々新たな合計特殊出生率が発表される予定ですが、まだ市町村単位では出ておりませんので何とも言えませんが、これまでのところを見ても、出生率につきましては悪くなっていないということです。

○石橋会長

ありがとうございます。周りを見ても2人、3人兄弟が多いなと感じます。生まれる世代が少ないというところで、そのあたりが増えていけるようになっていけばと思います。次は子育ての悩みや不安への支援についてです。

○福井委員

実際のところ小学校の先生に親が子育てについて相談される件数は多いですか。

○大石委員

どこまで答えられるかということもありますが、豊川小学校では、スクールカウンセラーの先生がおられますので、保護者の方も相談できますし、子どもも相談できるのですが、ほぼ子どもが利用しています。話をしたいという子供もいれば、こちらから話をしてみればといった子どももいます。

○石橋会長

ありがとうございます。聞いてみて初めて分かる事実で、親さんが相談しに行くのかなと思ったのですが、子どもさんが利用するほうが多いのですね。小学校ですので、子どもさんが直に聞

く、相談するということはすごく大事なことだと思います。

保育料が3歳以上児については、昨年10月から無償化となり、保護者さんからすごく喜ばれていました。目に見えて払うものが減ったと喜ばれていましたが、子どもたちのために使われるものとなればいいなと思いました。

○藤原委員

子どもが3人いまして、保育料の無償化により助かっています。気になるのは、片親家庭のうちにはそれ以上の支援があると思うのですが、支援が足りているのかなと思うのですがどうでしょうか。

○又賀課長

ひとり親の家庭ということになります。児童扶養手当という形で支給をさせていただいております。また、その他の給付、貸付け等の事業等、色々な事業がございます。詳細については、広報、益田市のホームページやひとり親世帯のしおり等準備して対応させていただいております。

今年のこととなりますが、色々な子育て世代に対する新型コロナウイルスに対応するというところで、給付金を支給させていただいておりますが、国の事業ですけど、子育て世帯に対する給付ということで、ひとり親世帯に給付ということで、子ども一人あたり、3万円から5万円という形で給付を実施しているという状況です。

○石橋会長

ありがとうございました。行政の支援の漏れがないように、母子世帯、父子世帯、中にはご両親がいらっしゃらない世帯もありますので、配慮をお願いできたらと思いますのでよろしく願いします。

つづきまして、保幼少の連携についてなにかありますでしょうか。

豊川小学校に配置している社会教育コーディネーターについてコメントをお願いします。

○大石委員

社会教育コーディネーターを1名学校に配置しています。職員という位置付けではないのですが、主な仕事は地域と学校の教育活動をつなげることです。こんなことしたいけど、地域にこんな方がおられないかなとかあれば、コーディネーターが探し、段取りをしてくれます。地域とつながりを作ってくれて助かっています。

○石橋会長

ありがとうございます。やはりそういった世話役の方がおられれば、地域との距離が近くなりますね。子どもたちにとっても地域の方にとっても。昔は地域の中に小学校は当たり前で、だんだん距離が若干離れ気味となっているので、その距離を近づけていけるということはすごく重要なことだと思います。また、街中の方の学校でもこういった方が増えていけば、それぞれの地区のいいところがたくさんありますので、より取り組んでいただければと思います。「A」評価がありますが、「AA」とかなるぐらい、是非取り組んでいただければと思います。

○社会教育課 中島係長

ありがとうございます。社会教育コーディネーターの配置につきましては、今年度からは、戸田小学校にも1名配置をして、2名の配置となっております。学校の中に籍を置かせていただいておりますので、学校の準備が整うことが重要となっております。どこでもすぐすぐできるかといわれると難しいのですが、計画としては、少しでも増やしていければという状況です。

○福井委員

豊川地区では、開かれた学校、保幼少の連携も意識され、コーディネーターがいてうまくいっている。他地域での広がりはどうですか。いいモデルを他地域の方が知る機会がありますか。

○社会教育課 中島係長

年1回になりますが、毎年3月に「人づくりフォーラム」を開催し、市民学習センターを会場にし、500人くらい集まる場があります。その中で、社会教育コーディネーターの活動を事例発

表しています。色々な益田市の人づくりに関わる発表の中の1つとして活動報告をしています。ただ、昨年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の関係で、人を集めることが出来ず、事例発表をされる予定だった方にお越しいただいて、無観客の中で事例発表をしてもらう様子を撮影させていただいて、発信をするという手法を取らせていただきました。

○福井委員

せっかく良い成功事例がありますので、共有できるとより良いかなと思い聞いてみました。

○石橋会長

ありがとうございます。発信をしないと、縦の広がりはできても、横の広がりが少ないと思いますので、是非これからも計画してやっていただければと思います。

発達障がいについてなのですが、江津市の方で、日めくりカレンダーを頂いたのですが、見ていて、ほのぼのとするものとなっていますので、もし機会がありましたら、学校の子どもの目のつくところに掛けてあげたら発達障がいの子に対しての理解がもっと広がって生活しやすくなると思います。

○高島委員

江津の方で、発達障がいの会を持っていて、その方たちが集まって日めくりカレンダーを作られて、支援の会で全放課後児童クラブに置けるようにしました。そうしたら、子どもたちが当番のようにめくるのですが、日めくりカレンダーに漫画と癖がある子がこんなことをするとき、こうしたほうが良いよという様なことが分かりやすく書いてあり、漫画を読むかのように子どもたちがめくっていて「これ、だれ君みたい」な話をして、こういう風にやってみようとしているので、学校にあるといいなと思います。

○石橋会長

こういったものを活用して、発達障がい支援の必要な子を内側から支えていけたらと思います。

○福井委員

43の情報モラル教室であるとかメディアコントロールといったキーワードがありますが、いまこの会議の中で、コロナ過での生活について話がありますが、私も一日中、遠隔授業を行っていますが、子どもたちがメディアに触れる機会が増えてきているなか、子どもたちの状況を学校、社会教育課がどのように把握しているのか。そして、これからは、プログラミング授業が小学校から導入され、全くメディア、IT環境が悪だと押し付けるばかりでもいけない世の中となってきました。その中で、現状どのように捉えられて、これからどのような指針の基にメディアコントロールを啓発していこうとするのか、バランスを取りながらどのようなイメージがあるのか質問させていただきます。

○学校教育課 田原課長

事業番号の43の事業内容に書いてあるように、数年前までは、アウトメディアを推進しますと進めていました。ただ、元々メディアを排除しようという考えでしたが、生活が変わっていく中で、ICT環境を上手に活用していく、「メディアコントロール」の部分大切にしていきながら、教育にも繋げていけたらと考えながら、現在、学校教育課としては、各学校と連携しているところです。資料1-1の28番でも若干触れてはいますが、令和元年度における事業総括で、全国の学力テストの中で、テストを受ける部分と、生活のスタイルを調査するものがありまして、一概には言えませんが、益田市全体のお子さん方の傾向として、メディアを1日3時間以上テレビ、スマートフォン、タブレットを使っているお子さんの件数が、1日1時間以内に抑えているお子さん方よりも低い傾向にありました。これは、家庭内での自由時間の中で、テレビ等の時間を何時間以内にしようねとか、約束している家庭のお子さんの方が、授業への切替ができるお子さんに繋がっていくのではと分析しています。そういったところから、学校を通じて、まずは家庭を通じて、メディアを上手に活用していくことと、約束事として、家庭内のルールを持たせることで、子どもさんに規則正しい生活を行っていくことで健やかに育ってほしいということ

ころを各家庭に伝えていきたいと思ひます。

○福井委員

大人も、新しい生活様式と言われているので、子どもの生活様式というものも少しずつ変わっていくのかなと思ひます。それに合わせた目標を設定されていけばと思ひます。

○石橋会長

ありがとうございます。時代に即したご意見で、状況が変わればその内容も変えていく中で、昨日までは悪い事だったことが、今日から良いものとされるということはよくあることで、メディアを活用していかないと生活が成り立たない世の中となっていく思ひます。言われたように「使い方」がキーワードになると思ひます。上手に使えるような教育がすごく大事になっていくと思ひます。そこを前に出していければと思ひます。

それでは、資料 1-①に関してはこれで終了とします。続きまして、施策事業ごとの量の見込みと、提供体制の確保についてですが、最初に、幼児期の学校教育・保育の量の見込みと提供体制の確保についてです。主に子どもの量の見込みと、実際の確保数についての統計です。1号、2号、3号認定に関して、保育所に入所できないということは益田市にはないと思ひますので、問題は無いと思われまひます。

続きまして、資料 1-④について、説明をお願いします。

○子ども家庭支援課 盆子原課長

資料 1-④の今年度評価が下がったところについて説明をさせていただきたいと思ひます。⑦子育て短期支援事業として、保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行うショートステイ事業を益田市では実施しています。平成 30 年度「A」評価、令和元年度「C」評価となっています。こちらは、評価は数値目標となっていますので、実績が 113 人から 21 人と利用者数が少なくなっていることが分かります。平成 30 年度と令和元年度では利用世帯数は変わりがありませんでした。平成 30 年度につきましては、兄弟での利用、出産等身体上の理由での利用が主で、利用者数が多い状況でした。令和元年度は、育児負担感など精神上の利用が多く、土日など短時間での利用が多かったため、総体的に利用者数が減っている状況でした。また、昨年度の事例として、一時的なレスパイトではなく、子どもの養育自体が難しく、益田市のショートステイ事業では 1 回 7 日以内での利用と決めています、7 日では対応できず、長期間の利用を希望される等、目的や期間がショートステイ事業にそぐわないもので、子ども自身が支援を必要とする子どものため、ショートステイ先での受け入れが難しいといった案件がありました。これについては、関係機関と連携を取り、児童相談所での一時保護等で対応し、ショートステイ事業の利用に至りませんでした。数字での評価で、「A」から「C」に評価が下がっているのですが、ショートステイ事業を利用することにより、子どもの安全な養育であったり、保護することにより虐待の未然防止であったり、養育環境を整えることが出来たと認識しております。

○石橋会長

ありがとうございます。

○石田課長補佐

⑨-2 一時預かり事業について、令和元年度が平成 30 年度に対しかなり利用者数が減少しています。田中副会長様からありましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で利用者が減ったのかどうかは明確な理由というものは不明ですが、原因の 1 つとして考えられるのは年度末にかけては新型コロナウイルス感染症の関係であったのかなと。また、令和元年 10 月からの幼児教育・保育無償化となり、それまで、一時保育事業等を利用していた子どもが、保育所に入所したのかなというところもあり、確認してみたのですが、実際のところ平成 30 年度 10 月から 3 月末の 3 歳以上の入所者数が 17 人でした。令和元年度の 10 月から 3 月末までの 3 歳以上の入所者入所者数は、16 人でしたので、人数は増えていませんでしたので、幼児教育・保育無償化による影響ではないと把握はしているのですが、なぜ一時預かり事業の利用者数が減ったのか。益田市内の

保育施設全体で減少しています。一時預かり事業の利用数減少について、里帰り出産での利用等もあると思いますが、最終的な原因は不明です。

続いて、⑩病児・病後児保育事業についてです。この事業については、評価が「B」から「A」となっております。平成30年度の利用実績471人から令和元年度の利用実績516人になり、実績が増えていますので、評価が「A」となっています。この事業につきまして、年々利用者数が増えているのは、病児保育室利用におけるパンフレット等作成、配布、施設の見学会を毎年数回実施し周知を行っています。平成30年度から利用料につきまして、兄弟の同時利用、連続して利用する際の利用料を半額にすることとしています。そちらについても、保護者が利用しやすい環境が構築されたのではないかと考察しています。余談ですが、令和2年度4月以降は新型コロナウイルス感染症の関係で利用者が非常に減っている状況です。

○石橋会長

ありがとうございます。

○藤原委員

先ほど一時預かり事業が「B」表から「C」評価と下がっており、益田市全体の利用者数が減っていますが、各保育所にばらつきがあるのでしょうか。どこも同じように減っているのなら、あまり理由もない様に思うのですが。園の評判とか保護者から聞くこともあるので、そういったこともあるのかなど。

○石田課長補佐

益田市全体を通して一時預かり事業を利用される保護者が少なかったです。毎月各施設から利用者数の報告がありますが、それを見ても全体的に4月から年間を通して利用者数が減っているので、特定の施設の利用者数が少ないことはないです。

○石橋会長

ありがとうございます。それでは、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制の確保について終えたいと思います。

続きまして、第2期益田市子ども・子育て支援事業計画の一部修正について説明をお願いします。

○石田課長補佐

第2期の益田市子ども・子育て支援事業計画の策定をしました。策定した後に一部修正点がありましたので、その内容について説明させていただきます。資料2の修正前、修正後を載せていますが、第5章施設・事業ごとの量の見込みと提供体制の3(2)確保の地域子ども・子育て支援事業の提供体制の⑫実費徴収に係る補足給付を行う事業につきまして、令和元年10月から開始となっております幼児教育・保育無償化により、対象者が変更となっております。確認が不足しており、修正をしたところでした。この改正によりまして、これまで、食材扶養費、給食費にかかる実費徴収につきまして、生活保護世帯について補助対象として定められていましたが、無償化の実施により、生活保護世帯、低所得世帯、第3子以降の福食材料費について、徴収が免除となり、国、県、市が負担し、保護者から徴収しないこととなりました。新たな補助対象者として、保育の必要性があると認定された方（施設等利用給付認定者）が認定こども園の1号認定、幼稚園を利用した場合の副食材料費の補助を実施することが、無償化の開始により対象となっております。益田市に置きましては、認可外保育施設を利用し、施設等利用給付認定者に対する副食費の補助については、実施しておりませんので、この事業の実施の要件を満たしていないことから、記載内容を修正前から修正後へ変更しております。なぜ修正したからと言いますと、益田市は独自に第2子の副食費を免除しています。それに伴い、当初はこの記載すべきとしてましたが、要件に合致していないということで修正をしたところでした。

○石橋会長

ありがとうございます。なにか質問がありますか。

それでは次に、保育所等の状況について報告をお願いします。

○子ども福祉課 大石

保育所等の状況について報告させていただきます。保育所等の設置及び定員等の状況について、平成30年度、令和元年度、令和2年度と入所者数を記載しています。毎年少しずつ減少している状況です。就学前施設の新規設置、変更について、令和元年11月より認可外保育施設（ベビーシッター）が開設されました。居宅訪問型で、定員1名、サービス提供区域は益田市、鹿足郡のベビーシッターとなっております。令和2年度において、新規に設置する施設の予定はありません。就学前施設の運営形態の変更や廃止の予定はありません。定員の変更として、保育所の1園が4月1日より30名から20名と10名の減となっております。参考資料として、平成28年から令和2年3月末の年度別人口状況を載せております。

令和2年4月からの保育料については、令和元年度から変更はありません。令和元年10月からの幼児教育・保育無償化により、3歳から5歳までの全ての子どもと0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子どもの保育料が無償化となっております。

○石橋会長

ありがとうございます。保育園の定員も減り、0歳児も減り、明るい話題ではありませんが、来年0歳の人口が1人でも増えていけたらと思います。そろそろマイナスからプラスへ転じるように、益田市には人口拡大課という課がありますので、良い方法をお願いしたいと思います。

それでは次に、放課後児童クラブについて報告をお願いします。

○子ども福祉課 炭屋

放課後児童クラブの状況ですが、資料4に沿って説明します。まず、1. (1) 入会申込状況ですが、益田市では11校区16クラブで465名の児童が入会しています。昨年度より28名の増となっております。クラブ別、学年別の入会者数については、表のとおりとなっております。

開設場所については、学校給食調理場跡地にトマト児童クラブを増設し、小学校活用可能教室を含め、全て学校敷地内にトマト児童クラブが入ることとなりました。これにより、定員が30名の増となり、トマト児童クラブの待機児童も解消されました。

次に、裏面の2. トマト児童クラブ施設整備についてです。先ほど申し上げましたが、学校給食調理場跡地に新設し、配置図のとおりとなっております。現地写真については、①から全体、②駐車場、③玄関、④教室となっております。

簡単ですが、以上が放課後児童クラブの状況となります。

○石橋会長

ありがとうございます。立派な施設が出来ていると思います。吉田小学校としても、慢性的な待機児童が解消されて、保育所での低学年受け入れ事業もお役目が終わるのかなと思っております。よりよい環境で子どもたちの放課後も安心して生活できたらと思います。

○高島委員

この会議、初回から参加させていただいて、放課後児童クラブについて細かいところまでいろいろ訴えてきたところであります。コロナ禍、全国の医療従事者の子どもを預かったということで、仕事として、放課後児童クラブが大きく市の真ん中に持ってきていただいたのかなと感じています。

今、西部全体を回らせてもらう中で、課題が見えてきたなと思っていますし、今からがスタートだと感じています。加配児童も、学校の先生たちはご存知だと思いますが、障がいを持っているお子さん達、グレーという言い方はしたくないですけど、生きづらさを感じている子どもたち、そういう子どもたちがすごく増えてきています。

私は最初、小学校との連携が一番に大事だと思っていましたけど、昨年からは保幼というところでは、保育所からスタートさせてもらって、放課後児童クラブを利用する就学前の児童のことで、支援員の会の会長として出向かせてもらいました。まだまだ、放課後児童クラブの職員が職業として認めていただけなかったところが多きくあり、支援員の会の会長が規くのであれば、守秘義務も守ってもらえるだろうと。だけど、務めている職員さんは、学校教員を退職された方、保育士の免許をお持ちの支援員が多いのです。

今回保育所を覗かせてもらって、0期から最終6年間を保護者の困り感とか、一生懸命初めての子どもの育てるお母さんの6年間を聞かせてもらう児童クラブの職員とすれば、非常に大事だ

ったと気づかせていただいて、これから保育園、幼稚園に覗かせていただいて保護者さんの意見を頂きながら、就学した学校との連携を大事にしながらつなげていかなければならないと感じています。

支援員の位置付けがしっかりしていなかった一番の原因が何だったのかと思うと、昔、放課後児童クラブできた当時は、児童を預かるだけというものでした。今は、責任が重たいものとなってきています。江津市、浜田市は社会保険というものがつきました。社会保険を付けてくれというのではなく、なにかしらの社会補償がない限り、子どもの命を預かっているのに、新型コロナウイルス感染症のようなことがおこると、責任の大きな仕事で、どこに訴えていいのか分からない状況になっているのかなと思います。

島根県が良い形で放課後児童クラブが仕事として皆さんに認めていただけるような位置付けになっていくことを願いたいと思います。

施設についてですが、トマト児童クラブについては、しっかりしたものを作っただきありがたかったなと思いますが、でも、予算がここで全部使われて厳しくなってきたのだらうと感じてはいるのですが、都茂児童クラブについては、行政の方にも訴えているのですが、震度5以上が来ると潰れてしまうように老朽化しています。また、放課後児童クラブの空き状況としてあと5人とありますが、今子どもが21名、大人が3名います。今の時点で狭くてどうにもならない状況があります。社会に出ていく子どもたちを安全に見ていく場所を早く確保していただきたいと思います。

○石橋会長

ありがとうございました。働きたいけど働けない事情というのが現場から声が聞こえてきているようで、支援員がいなければ箱物を作っても子どもを預かれませんかよということになってしまいます。今の保育園がその状況に近いと思います。保育士になってもやっていけないため、違う仕事についてしまう。働く場所はあるけれど、働き手がいらないため定員を減らさないといけないことになっています。働く方の支援もやっていかななくてはならないと思います。

施設についても、老朽化等で危ない施設もあります。益田市の子どもたちがそういった環境で利用をしているという状況を行政側も確認をしなければならぬと思います。お金のかかることですので、すぐには無理かもしれませんが、どうにか対策し、子どもたちのために努力していただければと思います。

○高島委員

都茂児童クラブについては、確認はしてもらい、写真も撮ってもらって話をしていますが、予算上こととかがあるのかなと思っています。

辞められた職員のなかには人間関係が大変だったということをよく聞きます。

○石橋会長

人間関係はすごく難しく、子どもたちの中でも人間関係があり、それが嫌で学校や保育所に行きたくなくなることがあります。そういったところをうまくやっていただくのが支援員さん、保育士さんの仕事の1つとなっていると思いますので、そういった方々の支援をしっかりしていくのがこれから大事なことであると思っています。行政の側としてもできることではないかなと思っています。箱物の方はできたので、次のステップではそういったところを益田市ではどんどんやっていますよと、今年、短期大学や、島根大学などの保育科へ行っている学生さんがみんな益田市にかえりたい、益田市で働きたい、保育士、支援員になりたいと言われるような環境を作っただけだったら嬉しく思いますので、今の意見から総評として最後述べさせていただきたいと思います。

それでは、時間が来ましたので最後次回の会の開催についてお知らせしていただければと思います。

○石田課長補佐

次回の開催の予定ですが、10月または、11月のところで予定しています。主な議題として、令和元年度の益田市子ども・子育て支援事業計画の評価についての最終確認と、令和2年度からの第2期の事業計画の評価方法についてどういった形すべきか議論できればと思います。「益田市版放課後子ども総合プラン第2期アクションプラン」について報告等を予定して

おりますので、ご参加いただければと思いますのでよろしくお願いします。

○石橋会長

また日程が決まりましたらお知らせしますので、また貴重なご意見を頂けたらと思います。
ではこれで、予定していました議事が全て終わりましたので司会の方にお返しします。

○司会

「石橋会長」様、議事の進行ありがとうございました。
それでは、以上を持ちまして第23回益田市子ども・子育て会議を終了させていただきます。
本日は、長時間に渡りご協議いただき有難うございました。